



わたしたちの 2度目の結婚。

「結婚しよう。」という言葉とともに手渡された、ダイヤのリング。その時の私は、なぜか涙が止まりませんでした。小さい頃からの嫁さんになる夢がかなった喜びではなく、この人とずっと一緒に生きていくことが、なによりうれしかったのです。だから、その証であるダイヤのリングは、なによりも大切なものでした。それから数十年経って、こどもたちは巣立っていき、また、ふたりだけの時間が多くなりました。そして、心に浮かんだのは、あのダイヤのリングでした。大切にしていたつもりが、ただ大切にしまっていただけになっていたことに気づいたのです。婚約指輪をリフォームして、いつでも身につけていられるペンダントに。それは、いわばわたしたちの2度目の結婚の記念。生まれ変わったダイヤに、またずっと一緒に輝いていくことを誓って。

